

疾走する ハンパパッケージ ミュージック

原 雅明 + 編集部

Photo: Nakamura Tohru

Location: CUSTOM AUDIO JAPAN/Yoriyama

当連載で取り上げているテーマのなかには、原稿執筆時と本誌が書店に並ぶ頃とは状況が一変していた、などという事態も発生しており、まさに「疾走する...」というタイトルどおりの状況となっている。そのため、毎回新しく登場する用語についての解説を盛り込んでいるのだが、各用語の背景や他との関連付けについてはいままでも不備な部分が多かった。そこで反省と解説のフォローアップを兼ねて、前回より3回にわたり音楽配信用語ガイドをお届けしている。ところで最近の話題といえど何と言っても、5月末より試験運用が

開始されたNTTドコモによる次世代携帯電話データ通信「FOMA」(フォーマ)だろう。公開された動画配信のデモなどを見ていると、音楽配信サービスも開始されるのかどうかが大変気になるところである。今後日本は、携帯電話が強力な配信プラットフォームとなる可能性があるため、音楽配信先進国になりつつあるのだ。そこで今回は、現在すでに行われているPHSによる音楽配信サービスの用語もいくつか盛り込み、音楽配信の国際標準技術を策定する組織「SDMI」の規格から、代表的なものを解説する。

SDMIや次世代ケータイ関連用語を集約！ 保存版・音楽配信用語ガイド 中編

今回は、SDMIをはじめとした、次世代方式ケータイ音楽配信に関連する用語が中心となっている。各用語は基本的なものから徐々に専門的項目となっているので、途中から読まれた場合に不明な用語があれば、前号を含めて項目を遡って頂きたい。用語によっては解説のほかにも、関連したサイトのURLも掲載した。

【SDMI】エス・ディー・エム・アイ

Secure Digital Music Initiativeの略で、全世界共通の音楽著作権保護技術を策定するために、音楽業界、コンピュータ業界、家電業界などの企業によって開催されている国際会議のこと。現在、有料の音楽配信サービスに採用されている配信システムやPD（ポータブルデバイス）の多くはSDMIの規定に準拠しているが、SDMIに法律的な強制力はないため規定を守らない企業があることも事実だ。

SDMI
 www.sdmi.org

【チェックアウト / チェックイン】

Check out / Check in

SDMI規定の1つで、音楽配信やCDリッピングなどによりパソコンに保存されている楽曲に対して、PDに転送できる回数を制限し、不正コピー拡大を防ぐ機能。

パソコンからPDへの転送をチェックアウトといい、またその逆はチェックインと呼ぶ。

現在、簡単にコピー可能となってしまったCDと比較すると、この機能は使い勝手が悪いのは事実だが、ネットでの楽曲交換が容易となっている現状では、友人との貸し借りレベルだった時代とは比較にならない規模の不正コピー拡大が懸念されるため、権利者側も慎重にならざるを得ないのだろう。

【バックアップ / リストア】

Back up / Restore

現状の有料音楽配信でストレスを感じる部分として「お金を払って買ったのに、OSの再インストールを行った場合や、新しく買ったパソコンでは聴けなくなってしまった」ということがある。しかし、いくつかの再生ソフトでは、通常のデータと同様に楽曲とライセンスキーのバックアップを行い、OSの再インストールを行ったあとや新品のパソコンに対してのライセンスキーの再発行（リストア）が受けられる機能が備わってきているので、もしOSの入替えやパソコン買い替えを行う場合は、事前にこの機能の有無を、楽曲を購入したサイトに確認することをおすすめする。

【ストリーム】Stream

動画や音楽を再生する際、すべてのデータを受信する前に、再生が始まる配信方式のこと。

いよいよインターネットがテレビ、ラジオに次ぐメディアへと変貌する時代が到来した。常時接続の普及によって、気軽に長時間のストリーム番組を受信できるユーザーが増えつつあるのだが、現状では、ネットワークが混雑すると受信できないという事実もあり、サービスの有料化には工夫が必要になりそうだ。当分の間はプロモーションなどに特化した無料コンテンツの配信で威力を発揮することになるだろう。

Sony Music Online Japan Broad Band
 www.sonymusic.co.jp/broadband/

【ワイヤレス配信】

Wireless distribution

携帯電話やPHSなどの無線（ワイヤレス）通信を使った音楽配信に関する構想が発表され、一部実用化されたことが話題となっている。パソコンでのダウンロードと比較すると通信費が割高な点など、問題はいくつかかかっているが、携帯電話



www.sdmi.org

 www.Sdmi.org

コンピュータ / コンシューマー機器メーカーとレコードレーベルが、オンライン海賊行為防止技術の規格策定に向けて協力しようと2年前、SDMIを結成した。

がこれだけ生活に密着している現状ではサービス充実への期待も膨らむ一方だ。

【サウンドマーケット】

Sound Market

DDIポケットが提供しているPHS端末向けの音楽配信サービス。東芝の「ケータイdeミュージック」と「SDAIR」の2方式があり、端末機種によって利用できる方式が異なる。PHS端末でダウンロードする点は両方式共通だが、前者はMP3で圧縮された楽曲をリーダー/ライターで「セキュアマルチメディアカード」(SMMC)に書き込み、再生は対応PDで行うのに対し、後者はAAC圧縮の楽曲を対応PDにより直接SDカードに書き込む方式となっている。

Sound Market
www.ddipocket.co.jp/h_link/sound_market/sound_market.html

ケータイdeミュージック
www.keitaidemusic.org

東芝SDAIR製品紹介
www2.toshiba.co.jp/mobileav/products/audio_212as/

【エム・ステージ・ミュージック】

M-stage music

NTTドコモが提供しているPHS端末向けの音楽配信サービスで、TVスポットCMが大量にオンエアされていたので、ご記憶の人も多いだろう。同サービス対応機種である「picwalk」の第1号機として、松下からSDカード対応端末が他社に先駆けて発売され話題に。続いて4月下旬にシャープからもメモリースティック対応端末が発売された。

M-stage music
www.nttdocomo.co.jp/mc-user/mstage/music/

Picwalk P711m製品紹介
www.mci.panasonic.co.jp/pcd/picwalk/

Picwalk SH712m製品紹介
www.nttdocomo.co.jp/new/contents/01/whatnew0425a.html

【IMT-2000】

アイ・エム・ティー2000

ご存じのとおり次世代携帯電話の通信方式で、NTTドコモの「FOMA」と、今

後、auの「cdma2000」との間で激戦が予想されるが、音楽配信サービスの開始について具体的な予定は両社ともまだ発表していない。IMT-2000に先行しているPHS向けの音楽配信では、1曲ダウンロードするのに10分以上かかるため、その間の「通話料」が必要となる。通常、「10分以上の通話」はありえる範囲だが、曲の代金に上乗せされるのはやはりつらいところだ。一方IMT-2000での高速通信はポケット通信となるのだが、約5メガバイトの音楽ファイルをダウンロードすることなど想定されていなかったと思われる現在のポケット通信料金では、相当高くつくことになる。コンテンツ配信限定の特別料金設定をぜひとも実現してほしい。

FOMA HOME
Pfoma.nttdocomo.co.jp

cdma2000
www.au.kddi.com/cdma2000/

後編へ続く。
To be continue . . .

チェックイン / チェックアウトの仕組み



チェックイン / チェックアウトの考え方。チェックインはチェックアウトしたパソコンに向けてしかできない。チェックアウトには回数制限がかけられている。

海外の音楽配信サイトにInterview Net Age Music vol.5 「Gaialive from London」

 www.gaialive.co.uk



もともとDJとして活動しており、今年で32歳になるティモシー

 www.gaialive.co.uk

今回は、イギリスのGaialiveプロジェクトを紹介したい。ここは、シンプルだが印象的なデザインとともに、非常に質の高いDJによるライブストリーミングを提供している。派手さこそないが、数あるネットラジオのなかでも、キラリと光る存在だ。週単位でレギュラーの番組を定着させ、専門ジャンルに特化した番組も提供したり、グラストンベリーやビッグチルのような大きなフェスティバルなどのライブ中継もしたり、膨大なアーカイブも持っている。また“スーパーアイデンティティー”と称して、アーティスト名を公表せず有名アーティストが楽曲を提供するような試みも始めている。そして驚くべきは、ここの運営とデザインとメンテナンスのすべてをティモシー・ポール・リードが行なっていることだ。そこで、このティモシーにGaialiveプロジェクトについて、いろいろと話してもらった。

取材・文：原 雅明

翻訳：バルーチヤ・ハシム(HEADZ)

プロモーション商品の差別化と著作権

まずは、Gaialiveプロジェクトのことを説明してもらおう。

「Gaialiveは、1996年にプログレッシブネットワーク社のリアルサーバーを使って始めたイギリスで初のネットラジオ設備だったんだ。最初は、会社が運営するチームでやっていたが、みんなほかの仕事で忙

しくなったため、僕がGaialiveの運営者になったんだ。システム環境面では、メインサーバーにサンマイクロシステム社からスポンサー提供されたものを使い、さらにPSINetにも協力してもらっているよ」

Gaialiveには、イギリスの海賊ラジオ局のような活気がある。海賊ラジオ局はイリガルだが、これまでイギリスの音楽シー

ンに重要な役割を果たしてきたメディアだ。DJの登竜門でもあり、新譜のプロモーションとして影響力をもっている。

「毎週火曜日18時(イギリス時間)の“The PROMO Show”は、テックハウスやディープハウスを中心に、プロモ盤、リリース前の作品、アセテート盤、ダブプレート、未発表音源だけがプレイされる重要なメディアなんだ。これは1人1人のDJやグループが、今まで蓄積した体験と情報をショーに提供してくれているんだよ」

プロモーション商品の差別化と著作権

Gaialiveはプロモーションメディアとし

Gaialive オススメサイト current top 5



 www.apple.com

僕はアップル製品が大好き。Gaialiveはマッキントッシュで作られている。僕の思考パターンもマッキントッシュ風になっている。



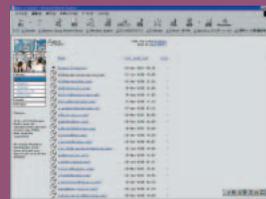
 www.macromedia.com

彼らのソフトウェアはいつ使っても素晴らしい。そして、いつも驚かされる。



 www.propellerheads.se

「リーズン」の時代がやっと到来した。ぜひチェックしてほしい。史上最高となるソフトの候補と言える。



 www.blink.halfempty.com/playbin/

素晴らしいデザイナーの作品のためのアーカイブ。フラッシュ作品が多いが、ディレクターで作られた作品もある。刺激されること間違いなし。



 www.metamute.com

仲のいい友人が、この雑誌とウェブサイトを作っている。

での可能性を訴えかけてきたが、それはなかなか理解を得られなかったという。

「Gaialiveは、つまりファイルシェアリングアーカイブであるが、16kbpsストリームにコミットすることによって、莫大な潜在的オーディエンスが保証するだけでなく、プロモーション商品（16kbpsラジオストリーム）と商業的な商品（44キロヘルツのCD）の明白な区別を打ち出せる。われわれがより大きな再構築の最先端にいることが証明されたのはグラストンベリーのよう、イギリスのもっとも有名なイベントをライブで放送したときだね」

さきほど、海賊ラジオ局を比較の対象に出したが、Gaialiveは著作権に関して、どういう対処をしているのだろうか。

「PRS(Performing Right Society)とMCPS(Mechanical Copyright Protection Society)という団体のテストライセンス計画に参加していたが、これにより年間1,500ポンドの支払いがともなった。しかし、この計画は1年以上も前に

継続されないことになり、その後の計画を期待したのだが、まだ何も登場していない。また、PRSとMCPSの両方には、ビジネスレベルと、セミナーや公のレクチャーなどで問題提起をした。たとえば、CDクォリティーで発信したり、高いビットレートで発信したりといった問題はまだ解決されてない。また、16kbpsモノストリームには大きな違いがある。それは、どのフォーマットにも、著作権法を犯している可能性があるからだ。ただし、CDクォリティーのストリームはマスタリングして海賊盤として売れるかもしれないが、16kbpsのストリームでそれはできない。そして、56kbpsのストリームですらやっていないレベルでGaialiveは、グローバルオーディエンスのために音楽を提供していると思う」

新しいマーケットを生む「リーズン」

「Gaialiveは商業的な事業として立ち上げられたわけではない。1つ1つのショーを

放送するために、約20ポンドのコストがかかっている、それは大抵、家賃や電話代にあてられている。オンラインでトレーディングをする可能性も出ているが、まだわからないね。また、今は別のシナリオに目を付けており、世界規模でダンスミュージックに商業的な要素を注入しようと考えている。そこには、プロペラヘッド社 Propellerheads の新しいソフトウェア「リーズン」がからんでいるんだ。このソフトは、まったく新しいファイルフォーマットを持ったパーチャルスタジオなんだ。新しいライブショーを開発している途中で、ここではリーズンのみがパフォーマンス楽器として利用され、ライブリミックスやプロダクションもフィーチャーされるだろう。この超コンパクトなファイルを基盤にした新しいマーケットを生み出すことに大きな可能性があり、この画期的なソフトウェアは、21世紀におけるわれわれのビジネスメソッドに大きな変革をもたらすだろうと思うよ」

 www.propellerheads.se

Gaialiveの構造

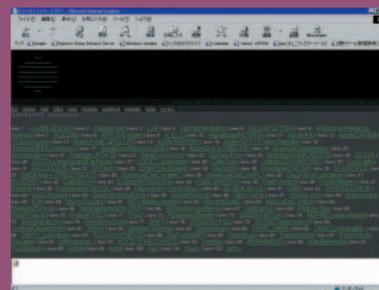
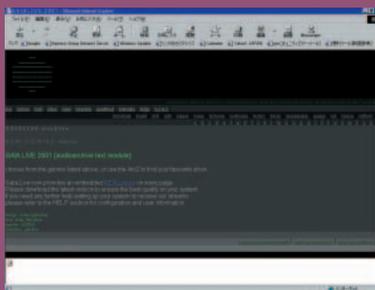


front page

サイトへの入り口であり、デザインが常に変化している。またここは、サイトのコンセプトの枠組みを見せるためのページでもある。デザインは、スポンサーのニーズを満たしながら、ラジオ設備としてのGaialiveと、ネットワークデザインシステムであるGaialiveの視覚的なメタファーの役割を果たさなければいけない。シンプルだが、手がこんでいる。

archive

アクセス可能なストリームをすべて見つけられる。15のジャンルからも、アルファベット順のインデックスからも選べる。ここで、Perlの威力がもっとも発揮され、ページと関連のリンクを瞬時に作り出す。1つ1つのサブセクションには、アーカイブのなかで提供されているショーのリストがあって、1つのショーを選択すると、そのページがロードされ、関連テキストがストリームと一緒にディスプレイされる。



news

さまざまな情報源、トピックについての記事が掲載されている。社会的インタラクションについての情報が満載だ。ほくのお気に入りのメーリングリストが含まれている。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp